

棚橋やすゆき 公約発表記者会見 発議内容

本日は、この度の岐阜市長選挙において、任期 4 年間で実現していく政策を、公約として発表いたします。

これまで、岐阜市内全域を調査し、岐阜市に住む私たちの岐阜市に対する期待の総意を調べて参りました。この結果「若者や働き盛りの方々が多く集まり、元気で賑やかで活気があり、どんな人でも快適に暮らせる岐阜市」である事が分かりました。この期待に応えられる都市構想として「世界に誇れ、「楽しく、楽に」生活できる先進モデル都市岐阜」を掲げます。

この構想を実現していく政策の柱は 2 つあります。1 つは、「地域ブランド化」プロジェクト、もう 1 つは、「宝っ子」プロジェクトです。

この政策の背景として、現在、少子高齢化、産業のグローバル化、慢性的な不況が、日本全国どの地域でも課題となっています。

産業のグローバル化で、海外の方々と競争する社会となったため、給料も景気も伸びなやんでいます。経済的な理由や将来の不安から、結婚や出産をためらう若者や働き手が増え、少子高齢化が益々進んでいます。地元で働きたくても、自分にあった仕事がなかなかみつからず、地元を離れる方々が多いです。都会へ働きに出ても自分自身の生活が厳しく、親の面倒まで見きれないため、生活保護を受ける高齢者世帯が増えています。これらの悪循環が、社会保障費や年金の問題へと発展しています。

こういった状況下、私たちは 1 つ 1 つの問題を、これまで通り、それぞれ解決していく構造的な解決策から、循環的な解決策へ舵を切っていく事が必要です。

1、「地域ブランド化」プロジェクト

これまでのように、他の地域から産業が入ってきて、再び他の地域へ仕事や人々と共に産業が出ていくのではなく、地域の個性、強み、特徴を生かした魅力、産業、街づくりをしていきます。

例えば、岐阜の豊かな自然を活かし、「清流パラグライダー」という空からのエンターテイメントを創出します。金華山を、岐阜城を、緑豊かな岐阜市を見晴らしながら、展望しながら川下りをする航空エンタメを創出する事で、今、高山であったり、白川郷であったり海外からでも訪れる旅行者を、岐阜市にも呼び集めます。また、自然の恵み、岐阜の食材を活かして、国際的な食文化を食べ歩きできる街づくりも進めていきます。世界各国 200ヶ国を目指して料理店を誘致することで、週末には岐阜を訪れる愛知県民や三重県民が何度でも岐阜市へ足を運びたいくなる街づくりを進めます。

そして、初めて訪れた旅行者でも、楽しく楽に岐阜市内で快適に過ごせるよう、旅行者目線で分かりやすいユニバーサルデザインを、市役所の中だけでなく、市内全域に取り入れます。初めての方目線で、街づくりを進めることで、子ども達であっても、高齢者であっても、障がい者であっても、誰もが分かりやすくなるためです。

また、これまでコンパクトシティ構想が進められ、岐阜市内でも地域間格差が広がっています。バス停やコンビニが全くない校区もあります。これからの岐阜市では、各地区の個性や特徴を伸ばせる特区に地区割りし、それぞれがモデル特区として先進的な取り組みができるよう、互いに切磋琢磨できるよう支援をしていくことで、これからの時代を見据えた先進的なモデル都市づくりを進めていきます。現在、第4次産業革命と呼ばれるIoT、インターネットオブシングスにより、社会環境が益々変わっていくと予測されています。アメリカ、中国、ドイツを始め、国を挙げて取り組んでいます。これに伴って制度、法律、規格が変わっていきます。これに対応しやすい仕組み作りを整えることで、これからの時代に適応しやすい街の環境を整えていきます。

これを加速化させていく上でも、中小企業・小規模事業者の円滑な事業の成長・継承の支援をしていきます。今、市内の様々な組織が、担い手不足となっています。問屋産業、農業などの産業もそうですが、消防団、水防団、自治会などの地域組織もそうです。担い手不足の組織については、集積と統合を推進していきます。一方で、新しい分野での取り組みに挑戦したい個人や組織については、成長の段階に応じて支援をしていくことによって、岐阜市が益々元気で賑やかで活気のある街へ前進していくよう支援をします。

2、「宝っ子」プロジェクト

これからの時代、仕事、子育て、介護、これらの3つを全て同時に行わなければならない家族が増えてきます。仕事1つだけでも大変なのに、3つ同時となると日常的に時間に追われて生活する人々が増えます。時間に余裕がなくなると、ちょっとしたことで、社内

でのつまらない喧嘩が退社へと繋がってしまったりします。こういった時代を見据えて、子育て世帯、若い世代の方々の目線に立って、安心して結婚できる、子どもをつくれる、子育てしながら働ける、介護ができる、育児後の再就職も簡単にできる仕組み作りを、企業と協力し合って支援をしていきます。若い方々、働き盛りの方々から、選んでもらえる岐阜市を作りあげます。

例えば、スマートシティを推進することで、日常にかかる家計の負担を少なくし、万が一の際でも安心できる街づくりを推進していきます。現在、私たちは、毎年国民一人当たりエネルギー代20万円以上を海外に支払っています。これらのエネルギーを地域で作って、地域で使う仕組み作りを推進していきます。そして、万が一の際、例えば、大きな地震が起きてしまった際であっても、トイレ、食べ物、飲み物、電気、暖房に困らない街を、このスマートシティで実現します。また、自動ドアやエレベータといった既に普及しているIoTサービスを益々浸透させることで、子育て世帯、若い世代の方々の暮らし、高齢者、子ども達、障がい者はじめ、どんな人でも快適に暮らせる岐阜市を作ります。そして、これからの社会変化に適応しやすい街づくりを進めていきます。

岐阜市で生まれ育った私たちが、岐阜市で学んだ事を活かして、それを地元で仕事としていけるよう、芸術、スポーツ、科学を始め、特技や専門性を高める場づくりを進めます。論語に、知っている人、好んでいる人より、楽しんでいる人が一番優れているという孔子の言葉があります。これを促す仕組み作りをします。これからの時代は、食育の面からもこの専門性を更に伸ばす後押しをしていくことで、誇れる岐阜市を作っていく岐阜の誇れる宝っ子が育ちやすい環境を整えていきます。また、現在は、岐阜の方々は、作り上手の売り下手だと言われていますが、これからは、生涯教育として、相手の目線に立って伝える情報発信力や、語学力を更に伸ばす支援を進めることで、作り上手の売り上手と言われる街へと前進していきます。

豊かな自然という岐阜市の特徴を生かした、地場産業としての先進的農業を推進していくことで、岐阜市内で生まれ育った若者が、スーツを着て地元の高層ビルのオフィスで働けるように、また、女性も、若者も、高齢者も、障がい者も、益々輝ける環境づくりを推進していくことで、その中からリーダーや管理者も育っていく場づくりを推進していきます。

そして、就職、結婚、妊娠、出産、子育て、再就職、介護をはじめ、人生の段階に応じた支援を、これからは子育て世帯の方々の目線に立って整えていくことで、これからの時代に適応しやすい街へと前進させます。例えば、結婚祝い金、出産祝い金、駅前託児所、在宅ワークの推進、多世代の住宅補助などを企業と協力して推進していくことで、子育て世帯の平均年収700万円を保てるよう推進します。若い方々、働き盛りの方々から選んでも

らせる岐阜市を作りあげます。

新庁舎建て替えの問題

最適解を見つけていきます。柳津町との合併特例債が施行できる期限が間もなく迫っています。通常、こういった建物の建設は不景気時に景気対策として実行します。しかし、現在は、東京オリンピックの建設ラッシュのため、建設業界の人的費、資材費が高騰しています。このため、岐阜市、本巣市はじめ、様々な自治体の市長が、総務省へ合併特例債の再延長の要望書を提出しています。

私も色々と市役所の新庁舎建設について、人口減少をどこまで見込んでいるか、IT や IoT 技術の浸透がどこまで検討されているか、色々と資料を集めたり、関係者にヒアリングして調べましたが殆ど反映されていないことが分かりました。

この上で、再延長が認められない場合は、見直せる箇所を精査しつつ建設を進めます。大きすぎるといわれる方もいらっしゃるかもしれませんが、企業誘致を進める際に利用していきます。再延長が認められた場合は、岐阜市を世界に誇れる先進的な街へと導くために、岐阜市のブランド価値を高めるためにも、これからの時代を見据えて、再延長が認められた範囲内で、全面的な見直しを検討します。

本日は、関係各社の皆さま、大変貴重なお時間を頂きまして、誠に有難うございました。